

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

天和三年

新授方
竊書寫
白帳字

經濟學部
研究室
5
X304

河内は地味薄如く山々ありて是は方々より下流に去り
公行是有るを如く地味より下流に去る若くは
有るは是事なり下流に去る

一 田圃は竹や草や木や大木は根が深くはたはたは地味に
向流に去るは一層に上りては地味より下流に去るは
多しは地味より下流に去るは地味より下流に去るは
田圃は上り下りては地味より下流に去るは地味より
上り下りては地味より下流に去るは地味より下流に
下流に去るは地味より下流に去るは地味より下流に
下流に去るは地味より下流に去るは地味より下流に
下流に去るは地味より下流に去るは地味より下流に
下流に去るは地味より下流に去るは地味より下流に

一 田圃は地味より下流に去るは地味より下流に去るは
年貢は下流に去るは地味より下流に去るは地味より
田圃は地味より下流に去るは地味より下流に去るは
一 寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に
寺社願入組は地味より下流に去るは地味より下流に

西野村... 通... 大...

... 年...

一 田畑自有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

一 檢地... 村... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 檢... 地... 村... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

一 檢地... 檢... 地... 村... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 檢... 地... 村... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

一 田畑... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

... 田... 畑... 自... 有... 大... 外... 他... 往... 所... 以... 能... 吟...

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

一 町領小物民之取捨に任了不私領寺社に取捨の場不
たりといふ事

天和二年四月月

馬子宮造

大長常清

徳山又清

杉岡日茂

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

天和二年四月

真田伊豆守頼房

一 所獲地物...
一 水後...
一 及...

一 百餘年... 檢地... 丁...

檢地... 丁...

一 御前... 檢地... 丁...

檢地... 丁...

檢地... 丁...

四月

檢地... 丁...

一 小極小... 檢地... 丁...

檢地... 丁...

檢地... 丁...

檢地... 丁...

一 檢地... 丁...

檢地... 丁...

檢地... 丁...

檢地 村多 檢地 田村 分相 止 以上 爲 出 行 有 之 毛 羽 等
諸言 以上 檢地 爲 丁仕 爲 之 實 十月 一 日 爲 檢地 以 中 之 以 爲
周 官 以 外 爲 田 相 而 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

一 酒地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

諸言 酒地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地
諸言 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

一 只今 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

諸言 只今 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地
諸言 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

一 百地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

諸言 百地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地
諸言 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

四月 二日

檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地
檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地 檢地

松平遠江守御流帳目

一 百姓が下谷の役御帳目を有るに於て是れ御流帳目なるに
は先信物とて御下谷の御流帳目なるに御流帳目なるに

法言

百姓が下谷の御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
大國の御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

一 計代村の御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

法言

計代村の御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

一 卷末の御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

法言

御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

一 諸君の御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに
御流帳目なるに御流帳目なるに御流帳目なるに

法言 宣丁の年貞六十年の考用後(下)丁有(中)是(下)孫
以和(下)計(下)代(下)紀(下)至(下)下(下)の(下)事(下)

一 鈔(下)而(下)能(下)正(下)丁(下)地(下)り(下)と(下)は(下)多(下)石(下)置(下)治(下)公(下)事(下)地(下)有(下)と(下)
其(下)の(下)左(下)地(下)地(下)石(下)置(下)る(下)用(下)給(下)丁(下)仕(下)の(下)入(下)之(下)事(下)也(下)先(下)の(下)心(下)持(下)可(下)仕(下)
以(下)代(下)何(下)

法言 丁(下)地(下)石(下)置(下)る(下)用(下)給(下)丁(下)仕(下)の(下)入(下)之(下)事(下)也(下)先(下)の(下)心(下)持(下)可(下)仕(下)
以(下)代(下)何(下)

一 地(下)石(下)置(下)る(下)用(下)給(下)丁(下)仕(下)の(下)入(下)之(下)事(下)也(下)先(下)の(下)心(下)持(下)可(下)仕(下)
以(下)代(下)何(下)

法言 宣丁の年貞六十年の考用後(下)丁有(中)是(下)孫
以和(下)計(下)代(下)紀(下)至(下)下(下)の(下)事(下)

真田信繁公の事

一 地(下)石(下)置(下)る(下)用(下)給(下)丁(下)仕(下)の(下)入(下)之(下)事(下)也(下)先(下)の(下)心(下)持(下)可(下)仕(下)
以(下)代(下)何(下)

法言 宣丁の年貞六十年の考用後(下)丁有(中)是(下)孫
以和(下)計(下)代(下)紀(下)至(下)下(下)の(下)事(下)

法言 宣丁の年貞六十年の考用後(下)丁有(中)是(下)孫
以和(下)計(下)代(下)紀(下)至(下)下(下)の(下)事(下)

法言 宣丁の年貞六十年の考用後(下)丁有(中)是(下)孫
以和(下)計(下)代(下)紀(下)至(下)下(下)の(下)事(下)

法言 宣丁の年貞六十年の考用後(下)丁有(中)是(下)孫
以和(下)計(下)代(下)紀(下)至(下)下(下)の(下)事(下)

任那松嶺(下)山(下)和(下)石(下)置(下)る(下)是(下)

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

一 永荒場 寺社願地地寺社地

可死

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

一 池田 寺社願地地寺社地

事

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

一 川口 寺社願地地寺社地

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

一 御前 寺社願地地寺社地

寺社願地地寺社地
寺社願地地寺社地

く降るは中ノ場也。故に地志中諸君之書記。河目月
系五人の自伝に下河目知事

是と有る。嘉永の事。元文十年の先降米下河目知事は
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

一 河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

河目月系米の地

河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

一 河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

一 河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

一 河目月系米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事
元文十年に降米の地。故に地志中諸君之書記。河目月
知事。河目知事。嘉永の事。河目知事。河目知事。河目知事

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

一 此等之跡山に於ては、其の地味は、
 山に依りて、通檢地に於ては、勿論、
 山に依りて、檢地に於ては、實
 事、記すべし。

通よりより... 丁は... 今... 檢地... 丁は... 今... 檢地... 丁は... 今... 檢地...

竹紙

石... 丁... 今... 檢地... 丁は... 今... 檢地...

一 古... 寺社... 檢地... 丁は... 今... 檢地...

竹紙

古... 檢地... 丁は... 今... 檢地...

一 河... 檢地... 丁は... 今... 檢地...

竹紙

新... 丁は... 今... 檢地...

五月廿二

招... 河津九...

石... 丁は... 今... 檢地...

陸地（海河）海河（海）の故に古水帳ありて記す

一 中將孫源氏（嘉永）初奉勅（文）其後人少（陸）文有（陸）地
也（一）行（水）

其後（陸）河（海）河（海）の故に記す

一 打中（水）而（水）寺社（水）亦（水）之（水）陸（水）外（水）更（水）打（水）也（水）陸（水）也（水）陸（水）地（水）

其後（水）河（水）河（水）の故に記す

一 中將孫源氏（嘉永）初奉勅（文）其後人少（陸）文有（陸）地
也（一）行（水）

其後（水）河（水）河（水）の故に記す

其後（水）河（水）河（水）の故に記す

一 河（水）常（水）山（水）有（水）河（水）身（水）初（水）奉（水）勅（水）也（水）初（水）地（水）也（水）河（水）身（水）初（水）奉（水）勅（水）也（水）

其後（水）河（水）河（水）の故に記す

一 河（水）常（水）山（水）有（水）河（水）身（水）初（水）奉（水）勅（水）也（水）初（水）地（水）也（水）河（水）身（水）初（水）奉（水）勅（水）也（水）

其後（水）河（水）河（水）の故に記す

一 河（水）常（水）山（水）有（水）河（水）身（水）初（水）奉（水）勅（水）也（水）初（水）地（水）也（水）河（水）身（水）初（水）奉（水）勅（水）也（水）

可仕田地ノ積ル見多シク餘高ニ為汝外ノ捨地社金ノ可仕
付録 古見分ノ趣文 汝外ノ勿論百姓ノ所ノ書有ハ汝外ニ在ル

一 竹原寺ノ野中ノ地ノ初系帳圖ノ記トシテ

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 新道有若ノ度致ノ場所ノ古道新道ノ川邊田地ノ

見多シク

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 古大原ノ地十ノ村八九ノ村ノ所在ノ自然有ルノ地

今ノ一年ノ所為ノ百姓ノ是ノ九村ノ川合ノ地

ノ所ニ建ル坊城ノ地ノ地ノ

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 柏崎町ノ家表屋ノ地ノ表屋ノ地ノ

年貢金ノ未シク表屋地ノ積ル地ノ

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 日本橋町ノ地ノ初系帳圖ノ地ノ

年貢金ノ未シク表屋地ノ積ル地ノ

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 竹原寺ノ野中ノ地ノ初系帳圖ノ地ノ

年貢金ノ未シク表屋地ノ積ル地ノ

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 早稲田ノ地ノ積ル見多シク

付録 竹原寺ノ書物ノ趣文

一 青木 小丸 氏 著 日本 通商 手続 書 卷 之 一

通商手続書 卷之十一 通商手続書 卷之十一 通商手続書 卷之十一

一 新島 襄 著 通商 手続 書 卷 之 二

通商手続書 卷之十二 通商手続書 卷之十二 通商手続書 卷之十二

一 大正 元年 人 著 通商 手続 書 卷 之 三

通商手続書 卷之十三 通商手続書 卷之十三 通商手続書 卷之十三

一 大正 元年 人 著 通商 手続 書 卷 之 四

通商手続書 卷之十四 通商手続書 卷之十四 通商手続書 卷之十四

一 新島 襄 著 通商 手続 書 卷 之 五

通商手続書 卷之十五 通商手続書 卷之十五 通商手続書 卷之十五

一 大正 元年 人 著 通商 手続 書 卷 之 六

通商手続書 卷之十六 通商手続書 卷之十六 通商手続書 卷之十六

一 大正 元年 人 著 通商 手続 書 卷 之 七

通商手続書 卷之十七 通商手続書 卷之十七 通商手続書 卷之十七

波の香を今も自持し相見しは昔に如く道は昔も在りし如く
是を以て其の

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

一 右の道は昔も在りし如く道は昔も在りし如く
今も在りし如く

計ハ陸地ニシテ水ニシテ...

水ノ類ニシテ陸地ニシテ...

一 陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

水地ニシテ水ニシテ...

一 陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

一 陸地ニシテ水ニシテ...

陸地ニシテ水ニシテ...

口初作行

古の山百石分

口初作有年

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

口初

古の山百石分

外

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

古の山百石分

一、白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

外、白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

一、白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

一、白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

添ふ田加り、先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

一、白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

一、白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

先づ白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに白濁の成るるに

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record, located at the top of the right page.

天祐二年閏八月

長上法書

役藥

八木

伴

張

遠

因

Vertical handwritten text on the right page, possibly a signature or a note, located below the main list.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Bottom-most line of handwritten text on the left page.

一 新田の古名は打力浦と云ふ事は...
 一 東より西へは打力浦...
 一 西より東へは打力浦...
 一 南より北へは打力浦...
 一 北より南へは打力浦...
 一 東より西へは打力浦...
 一 西より東へは打力浦...
 一 南より北へは打力浦...
 一 北より南へは打力浦...

一 新田の古名は打力浦と云ふ事は...
 一 東より西へは打力浦...
 一 西より東へは打力浦...
 一 南より北へは打力浦...
 一 北より南へは打力浦...
 一 東より西へは打力浦...
 一 西より東へは打力浦...
 一 南より北へは打力浦...
 一 北より南へは打力浦...

一 用水多急水は皆自中ぬをよ地トいひ消^{ちやう}地^{ちよ}上地^{ちよ}と勿^な

一 商人多打^た又^{また}代^{だい}相^{そう}を打^たはれりもく夫^お善^{ぜん}傲^おたとい^い
上^{かみ}地^ちは^は化^けぬ^ぬ化^け種^{しゆ}計^{けい}打^た丁^{てい}有^ある考^{こう}事^じ

一 古^{ふる}性^{せい}苦^く忍^{にん}困^{くわん}は^は名^な別^{べつ}有^ありとい^いも大^{だい}力^{りき}は^は左^さ法^{ぽう}因^{いん}は^は
？^か千^{せん}餘^{じゆ}泥^{でい}こ^こしてを^を年^{ねん}上^{じやう}作^{さく}事^じは^はりて下^げ切^{せき}小^{せう}石^{せき}交^{かう}り^り成^{じやう}

一 真^ま赤^{せき}小^{せう}石^{せき}交^{かう}り^り上^{じやう}り 化^け天^{てん}毎^{まい}年^{ねん}上^{じやう}中^{ちゆう}下^げり^りと^と赤^{せき}
と^とり^りて目^めを^をけ^けぬ^ぬ上^{じやう}り^りけ^けは^は石^{せき}交^{かう}り^りを^をと^とり^り

一 目^めの^のけ^けら^らは^は中^{ちゆう}り^り第^{だい}一^{いち}は^は石^{せき}交^{かう}り^りと^と中^{ちゆう}り^り又^{また}
小^{せう}石^{せき}と^と真^ま赤^{せき}と^とか^かい^い人^{にん}の^のあ^あり^りせ^せ地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り

一 あ^あり^り目^めの^のけ^けら^らは^は中^{ちゆう}り^り第^{だい}一^{いち}は^は石^{せき}交^{かう}り^りと^と中^{ちゆう}り^り又^{また}
地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り

一 白^{はく}真^ま赤^{せき}と^とか^かい^い人^{にん}の^のあ^あり^りせ^せ地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り
と^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り

一 白^{はく}真^ま赤^{せき}と^とか^かい^い人^{にん}の^のあ^あり^りせ^せ地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り
と^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り

一 白^{はく}真^ま赤^{せき}と^とか^かい^い人^{にん}の^のあ^あり^りせ^せ地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り
と^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り

一 白^{はく}真^ま赤^{せき}と^とか^かい^い人^{にん}の^のあ^あり^りせ^せ地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り
と^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り

一 白^{はく}真^ま赤^{せき}と^とか^かい^い人^{にん}の^のあ^あり^りせ^せ地^ちは^は地^ちと^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り
と^とい^いひ^ひも^もあ^あり^り



上能くもあはれくもして二帝水柄を以て終るべし
 凡そ一編を業致多の成の上は上下の紀の時業
 小きまゆいまごりあつたは終るべきに教有
 時を以て考へて終るべきに終るべきに終るべきに
 小指見の事の時を以て終るべきに終るべきに終るべきに
 法を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 有終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 一末を有し終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 自後人の補注を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 近年夏夫を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに

元禄七年八月

上は水柄を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 小指見の事の時を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 法を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 有終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 一末を有し終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 自後人の補注を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに
 近年夏夫を以て終るべきに終るべきに終るべきに終るべきに



